

北山地域おこし協力隊配置要望書

地域の目標	<p>北山地区（筋平・仙納・田野倉集落）は、十日町市・松代地域の中でも山間部に位置しています。天水や湧き水と粘土質の土壌、昼夜の寒暖差が大きいことから、美味しいお米がとれる地域です。また、従来からの住民有志グループによる活性化の活動（祭りなど伝統行事や住民同士の交流行事）を基盤として、大地の芸術祭などを通して大学・学生らと交流活動をすすめるなど、住民自ら楽しむもうとする風土がある地域です。</p> <p>しかしながら、特に近年は少子高齢化及び過疎化が加速し（田野倉集落の例：過去10年で実質約1/4減少、15年では半分近く減少）、棚田(米作)の後継者がいないばかりか、地域の将来を担う人材も著しく少なくなりました。</p> <p>美しい棚田、おいしいお米、この中山間地域にしかない生活文化や価値観・景観を守って残し、未来の世代に継承していきたい。</p> <p>このような目的に対して、私たちと一緒に取り組んでくれる隊員を歓迎します！</p> <p>《目標》</p> <ol style="list-style-type: none">1. 地域との関係人口の創出、地域への移住誘致を進めるための持続的な仕組みを創り上げたい！2. 2025年までに、地域に定住する家族を1件以上迎え入れたい！3. 2025年までに、地域での稲作の担い手となるべく、1名以上の若者に就農支援を開始したい！4. 地域行事や共同作業、高齢者などの生活支援を通して、地域の住民との交流し、互いに学び合う、元気にし合う関係を創り上げたい！ <p>【北山地区の概要】</p> <ul style="list-style-type: none">●位置：ほくほく線まつだい駅（周辺に学校・病院等あり）まで、車で約10分～15分 JR線十日町駅まで、車で約30分～35分●地域の世帯数と人口の増減（田野倉集落の例）：<ul style="list-style-type: none">・世帯数：31件　・人口数：65人　・人口増減率：2010年より22.6%減・人口推移：2020年65人 ←2010年84人 ←2005年108人（1889年346人）・世代別数：20歳未満=5人(8%)、20～30歳代=5人(8%)、40～50歳代=11人(15%) 60～70歳代=28人(43%)、80歳代以上=16人(25%)（計65人）●近年の移定住件数：2件<ul style="list-style-type: none">・40歳代夫婦、子ども2人の4人家族として関東より転入。・40歳代1名、地域おこし協力隊として県内より転入（現在活動中）。●交流している大学(研究室)：3件 東京都内の芸術大学、女子大学、愛知県内の工業大学<ul style="list-style-type: none">●地域おこし協力隊のこれまでの着任数：2件 2017年～2019年：1名、2020年～22年：1名。 <p>いずれも筋平集落を拠点として活動</p>
-------	---

隊員にしたい仕事

【新規隊員の活動】— 地域の“未来が必要とする活動”

A. 関係人口創出・地域への移住誘致を進めるための持続的な仕組みづくり

a) 情報を発信する仕組みをつくる。

ホームページ (HP) 開設主導、SNS 発信、農産物販売など。

HP については作成中のものあり。今の地域の様子や過去の記録、行事イベント情報、フォトギャラリーなどを掲載予定。SNS については未着手。HP や SNS の構築については補助金など資金が得られれば外部委託することも良。情報を提供する人や投稿・発信する人など、発信媒体を地域として運用していくようなゆるやかな担当グループをつくり、地域としての魅力をうまく発信できるような内容や方法を研究していく。

b) 地域外の人たちとの交流機会をつくる。

既存の行事・イベントの活用、新しいイベントの企画など。

小正月のどんど焼き、花植え活動、盆踊り、収穫祭、お神輿づくり、道普請など既存の行事の中から、地域外の人たちも参加できるように調整、参加をコーディネートする。また、農業体験や山菜きのこ採りの散策と食事会ツアー、大地の芸術祭の作品づくりボランティア参加募集など、この地域ならではの参加交流機会を地域住民とともに新規に企画運営することも期待。交流機会は下記 B・C の活動に関連させて企画。すでに交流がある大学の学生らと連携することも可能。

c) 持続的な活動資金の調達方法 (収益を得る方法) の検討と試行を行う。

上のような交流機会から参加費や、B の中でできた農産物の売上から捻出するなど、任期終了後も地域が継続的に資金を得られるような方法を見つけ出す。活動資金は、移住促進のためのイベント費用や、ホームページの管理費、将来移住者を迎え入れるための空き家管理など、目的のために用いる。特に各活動の初期にかかる費用は、補助金なども活用したい。

d) 地域に関係した人々とのつながりを維持し発展させる仕組みをつくる。

購買や交流などの活動を通して県外などからこの地域と関係した人々に「ファン」となってもらい、繰り返し来てもらったり、より深く関係してもらおうよう関係の発展を促したい。そのために、「ファン」の人々についての情報を一元的に管理する仕組みをつくり、活用していけるようにする。既に地域とつながりのある、民間のデータベース会社に協力を仰ぐのも一案。

B. どの地域より就農しやすい地区を目指した仕組みづくり

a) 休耕地を活用したり、高齢生産者を支援するなど、実際のお米づくりを担う。

田野倉集落の休耕地を体験圃場として、世話人らに習いながら、実際に米の生産や出荷販売を行う。農業機械の購入など農業を始めるにハードルとなりやすい事柄は、地域住人から借りたり作業を頼んだりして、まずは隊員自身がやり始めることを優先したい。

b) そのことで集落営農の中での農業技術の獲得方法や仕組みや体制を研究する。

隊員本人の経験と、個人的に米作りを行う赴任中の隊員や新規就農した移住者 (1 件) らの経験と合わせて、地区内で就農するにあたっての“ヒト・モノ・カネ・場・情報”などについて、利用できるものや難しさなどを共有し整理する。その上で地域の農業者とともに調整を行い、仕組みや受け入れ体制をつくって、将来に来る就農希望者に備える。

c) 生産した農産物提供のための販路を開拓する。

休耕地で生産したお米を出荷販売する、地域の販路を広げることで、利益 (= 活動資金) をつくり出し、また、地域との関係人口創出や発信のチャンスとしても活用する。商品として価値を高める工夫を検討することも期待。

d) 棚田に関連する、またそれを活用した活動・行事を支援または主導する。

A-b) に関連して、地域の魅力である棚田を活用した行事やイベントを実施していく。生産技術とともに、生活文化としての稲作を習熟して、就農希望者への発信につなげる。

※北山地区 (筋平・仙納・田野倉集落) 内における活動拠点・重心について

上記 A・B のような活動について推進しようとする「企画委員会」(住民有志) が、令和 2 年に田野

倉集落で発足したことや今回の隊員の住居を田野倉で準備していること、また隊員1名がすでに助平集落を拠点にしていることから、新隊員は田野倉集落を中心に活動することを想定しています。

【全隊員共通の活動】— 地域の“現在が必要としている活動” ※主に既存隊員が担当中。

C. 地域行事や共同作業、高齢者などの生活支援

- a) 地域の祭りや行事、共同作業を一緒に行う。
- b) 既存の交流大学と協力した地域イベントの開催を支援する。
- c) 大地の芸術祭に関連する、作品作りや地域の活動を支援する。
- d) 除雪や草刈り、体操教室補助など、その時々が必要に応じた活動を進める。

※活動の必要性とすでに赴任している隊員（～2022年夏まで）との役割分担について

既存の隊員については、現状、上記Cのような主に“現在が必要とする活動”を中心とした事柄に従事していますが、任期が進むにつれA Bのような地域の“未来が必要とする活動”の必要性も切望しています。新たな隊員との2名体制になった際には、従来どおり既存隊員がCを中心として、新規隊員がA Bを中心としてそれぞれ活動を担っていただく予定です。（または、得意分野に応じて活動ごとに役割分担をし直す必要があるか、赴任時に地域とともに協議したいと考えています。）いずれの活動にしろ、主一副というかたちで2名が協力して担当し、地域が望むすべての活動に関わってもらえるよう地域としても支援したいと考えています。

	目 標 (活動の項目)	活動推進のための地域側の状態 (100点中 ※現時点)	協力隊の活動比率 (100%の配分率)
A	関係人口創出、移住誘致を進めるための仕組みづくり	40点 交流機会は多。受入れ風土◎ 情報発信や活動資金は少 or 無	40% まずは情報発信などから。 交流機会はコロナ後より
B	就農しやすい地区を目指した仕組みづくり	50点 指導できる農業者◎。10年以内に 移住してきた新規就農者1件	40% 田んぼ仕事は日常的に
C	地域行事や共同作業、 高齢者などの生活支援	90点 隊員1名が活動中	20% 既存隊員の補佐的役割として

	<p>【その他の活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人から地区で暮らすための技術を学ぶこと (豪雪地での暮らし方、山間地での暮らし方、など)
理想の隊員像	<p><input type="checkbox"/>向いている人柄、必要なスキル</p> <p>田舎に暮らし、自然の中で活動することが好きな方、誠実で協調性があり地域活動が好きな方、学習意欲や向上心があり、様々な人と連携しながら地域の課題解決を一緒に進めたいという方。40歳くらいまで、お子さんら家族とともに来る方も大歓迎します！</p>

隊員年間活動計画
隊員年間活動計画（2022年度）

期間		具体的な活動概要		
		関係人口創出、移住誘致を進めるための仕組みづくり	就農しやすい地区を目指した仕組みづくり	地域行事や共同作業、高齢者などの生活支援
第1期	4月	↓ ・HPやSNSの構築 ・継続的な情報の発信 ・発信・投稿グループの運営 ・作品作りボランティア参加企画	・苗づくり・体験圃場の準備 ←..... 販路拡大の計画	・道普請（共同作業）
	5月		・田植え ・草刈り ・水管理	・大地の芸術祭の作品作り支援（苧平・田野倉）
	6月		・溝切り	・花植え活動（仙納・田野倉）
第2期	7月	コロナ収束へ ↓ ・関係した人々とつながり続ける仕組みづくり ↓ ・稲刈り体験会企画	・穂肥え ・草刈り ←..... 販路拡大の計画	・健康体操など補佐 ↓ ・盆踊り大会 ・大地の芸術祭中の交流活動（苧平・田野倉）
	8月		・水管理 ↓ ・稲刈り	★既存隊員が任期終了★
	9月		・米の出荷・販売	・大地の芸術祭作品の受付支援・案内
第3期	10月	・継続的な情報発信 ↓ ・交流機会の企画	・田起こし、代掻き	・収穫祭（苧平）
	11月		・片付け・冬支度	
	12月		計画のふりかえりと活動評価	
第4期	1月	降雪・積雪期 ↓ ・交流機会の企画 ↓ ・交流機会の企画	次年の活動計画づくり ↓ ・就農希望者が活用できるものや障壁を整理	↓ 除雪の支援 ↓ まつだい冬の陣おみこし作り、出場
			・苗代準備	